
梓内と視線

ボヘミアン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悴内と視線

【Nコード】

N9126A

【作者名】

ボヘミアン

【あらすじ】

内気な高二、健一はある所で凄惨な現場に出会う。その時の感情が、少年を思わぬ方向へと導く。少年は何処へ行くのか、終着駅は時のみぞ知る。

ブローグ

「ズバッ」

「バキッ」

「ドカーン」

めまぐるしい音の展開である。まさにその音の動きは、ブレイクダンスを24時間踊り続けたぐらい良く動いている。

それだけ動けば箸も持てない位疲れるだろう。が、しかし実際にはそれ程疲れていない、というか汗なんか何一つ掻いていない。汚れているのは目の周りくらいか、それは汗ではなく目ヤニである。それだけ動いたら湿布やら何やら色々必要だと思いがいざ蓋を開けてしまえば、必要なのは目薬一つですむ。

なぜなのか、実は、その音のめまぐるしい展開は全て空想の世界だからだ。それも人の手によって創られた、何年経とうが未来が無ければ過去もない。その世界は、その世界が完成した時点で時が止まっている。

「あー楽しいーやつとクリアしたよこのステージ」

その少年は、創られた世界に入り浸っている。その間、少年の時は止まっている。その間にも時計の針はいつものペースで歩を進める。

「お、うわ・・・あゝまた死んだよ。腹立つゲームだなあ」

これで何度目になるだろう。スクリーンの前で、少年が歓喜、または怒り、時には悲劇のおたけびを挙げるのは。

やはり、感情の動きは物凄い物がある。これもまた目まぐるしく変わる、X座標とY座標がどの位置なのかなんて絶対計算できない。

しかし、時間は計算できる。それもその筈。その少年のあしを踏み入れている世界は、時が止まったままの世界なのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9126a/>

梓内と視線

2010年10月14日15時12分発行